

わが町にいる人、あるものがつながり アクションがはじまるプロセスと工夫の実際

かたり湯



アクション
農園



新潟県湯沢町健康福祉課（湯沢町地域包括支援センター） 國松明美

アクション農園倶楽部 団長 丸山静二



【お話しするポイント】

- ♥ 事業の企画から実施評価まで住民・関係機関と話し合うプロセスがアクションを生む。
- ♥ 認知症の人・家族・ミーティング参加者等関わりのあった一人ひとりを大事にする。
- ♥ 行政は、アクション企画後もアクションに関わりながら活きたつながりをつくっていく。つながりを大事にする。



- ★ 思いのある人は身近にいっぱい。期待した以上のアクションが生まれ継続している。
- ★ 人と人とがつながっていきながら認知症の本人につながり始めた。
- ★ 認知症の人を体験として理解するようになった。
- ★ 認知症の人・家族・地域・サービス事業所・行政等地域が元気になってきた。



湯沢町の紹介

湯沢町(ゆざわまち)は、古くから温泉場として知られ、川端康成の小説『雪国』の舞台、近年ではフジロック・フェスティバルの会場でもある苗場スキー場があります。湯沢町は緑豊かな自然に抱かれた町です。

面積: 357.00km² (町のほぼ94%が山林が占めています。)
群馬県境の苗場まで町中心部から車で30分。

(湯沢地区、神立地区、土樽地区、三国地区、三俣地区)

気候: 初雪11月中旬, 雪解け4月中旬。

積雪量 3m前後 約半年は雪との生活です。

人口: 8,301人 **高齢化率** 31.21% (平成25年3月末)
(マンション人口は総人口の約1割、マンション居住高齢者が増えている)

世帯数: 3,463 高齢者世帯: 673世帯 (単身355 高齢者夫婦288 その他30) * 24年10月新潟県福祉保健部高齢者の現況より

介護保険認定率 14.16% (県平均18.95%) 30/30市町村
認知症自立度Ⅱ以上高齢者人口の11.3% * 25年3月末

湯沢町の認知症支援につながる取り組みの経過

23年度から24年度まで認知症施策総合推進事業

表5 町の認知症の取り組み

年度	~H7	H13	H15	H17	H18	H20	H21	H22	H23	H24	H25
めざすところ	<p>住み慣れた家・地域での生活が続けられる (大目標)</p> <p>認知症について正しい知識をもち支援ができる人が増える (中目標)</p>										
取り組み				県民介護講座	認知症支援検討チーム (町)		認知症キャラバンメイト・サポーター養成				
		高齢者こころの相談会 (町)									
町リハビリ事業											
					元気パワーアップ倶楽部 (町)						
					温水健康体操教室 (町民アシスタント・ボランティア育成事業) (町)						
					地域けんこつ体操教室 (町)						
					地域いきいきサロン事業 (湯沢社協)						
				訪問支援員による訪問	見守りネット訪問 (湯沢社協)						
										湯沢つながり隊 (社協)	
						小規模多機能・グループホーム開設					
							お達者倶楽部開始 (苗場福祉会委託)				
								認知症ケア普及啓発事業			
									実態調査		
										認知症施策総合推進事業	アクション開始



様々な取り組みをしてきたけど認知症の方やご家族に届いていない。…このままではいけない！どうしたらいいんだろう？

アクションを生み出す取り組み開始

アクションミーティング



「わが町アクションミーティング」地域ワークショップの展開

12月15日

1回目 わが町のアクションプランを作ろう！



- ① 「認知症になってもお互いが安心して元気に暮らせる町を一緒につくろう～その可能性とポイント～」
- ② 町の認知症の状況について
- ③ 「今ある課題」「こうなってほしい町の姿」「やってみたいこと」について話し合い

小さな単位から
でいい
出来ることから
気心の知れた
同級生とか、声
かけやすい人に
集まってもらって

1月23日



2回目 やってみたいことの具体的なアクションプランを作ろう！

- ① 第1回目ミーティングでの「やってみたいこと」を具体的に話し合おう
- ② 「やってみたいこと」の具体的なアクションの計画を立てよう

2回目で検討したアクションにアイデアを持ち寄って

2月20日

3回目 アクションに必要な仲間やつながりを作ってプランを固めよう！

- ① アクションプランの実行に必要な人の参加やつながりを作ろう
- ② アクションプランの実行動のための工程表をつくろう

3月21日



4回目 地元アクションへの協力や参加を呼びかけよう！ 町づくりフォーラム

- ① 認知症の人と家族とともに暮らせる地域を目指して
アクションのねらいと可能性を呼びかける
- ② 一緒にやろう！わが町アクション
湯沢町の課題やこれまでのミーティングの経過・アクションプランの実施
について
アクションへの協力・参加を呼びかけ

アクションミーティング
“アクション農園チーム”



アクションミーティング
“より所チーム”



楽しいね! (^_^)!

次、何時集まる? (^_^)!

勤務表開けとくわ!

アクションミーティング
“傾聴チーム”

アクションミーティング
“情報かわら版チーム”



認知症の人と共にお互いが安心して元気に暮らせる町を目指して認知症地域支援アクションが始まっています



アクション名: アクション農園倶楽部

アクション名の意味: 苗を植え作物を大きくするところにかけて、小さなコミュニティから大きなコミュニティになってほしいと願ってつけました。

【アクションの内容】

- ・朝市や無人販売所で収穫の喜びを感じてもらう⇒欲しい方にあげています。とっても喜んでいただいています。
- ・町内に回覧版を回し、部員・顧問・農地を貸してくれる人を募集する⇒貸してくださる方がいました。中学生の通学路、JAの近くで良い場所です。
- ・畑に目立つ看板をたてる⇒町内の看板屋さんがボランティアで作ってくれ、建設会社の人が頑丈に立ててくれました。「畑まもる」くんも立っています。
- ・自分たちが育てたい苗を持ち寄る⇒いっぱい苗が届き、収穫もたくさんです。
- ・曜日は決めるが誰が来てもいい⇒いろんな方の交流場所になっています。
- ・畑に椅子やテーブルを置き、昼食をとったりお茶をしたりする⇒毎回お茶してます。畑の野菜で交流バーベキュー予定。サツマイモの掘り手も大募集！
- ・ダッシュ村のようなシステムを目指す⇒今後の展開に期待！

アクションプラン

【アクションの目的(アクションを通じて目指したいこと・生み出したいこと)】

- ・閉じこもりや老若男女が外に出て陽に当たり汗をかき元気になり笑顔になる
- ・地域の人やマンションの人、誰もが区別なく話ができる

【アクションのつながり(こんな人・立場・分野の人)】

- ・農地を貸してくれる人・広い意味で(いろいろな面で)お世話をしてくれる人 ・町長

【アクションを話し合ってきたグループメンバーからメッセージ】

※外に出て、陽の光を浴びて汗をかきましょう！



毎週火曜日午前9時から収穫や草取りなどの畑作業をしながら交流しています。中学生が来てくれたり、様々な世代、背景の方が参加しています。毎回畑の作物を食べながら休憩しています。おいしいですよ～ 。一緒に活動してくださる方を随時募集しています。(年齢は問いません。子どもからお年寄りまでどなたでも..畑未経験者でもOK。ちょっとしたお手伝いだけでもOKです。立ち寄っておしゃべりしていただくだけでもOKです。

場所は栄町のAコープ側です。看板があります。

連絡先: 湯沢町健康福祉課(地域包括支援センター)
 電話784-3000 農園 団長 丸山080-5459-1009
<http://yuzawa.cc/now/> ブログもご覧ください。

アクション農園倶楽部の活動の様子



24年度農園
開園



7月中学生が
草取りにきて
きれました



グループホーム・ご近所、皆
でさつまいも掘り 焼きパー
ティ



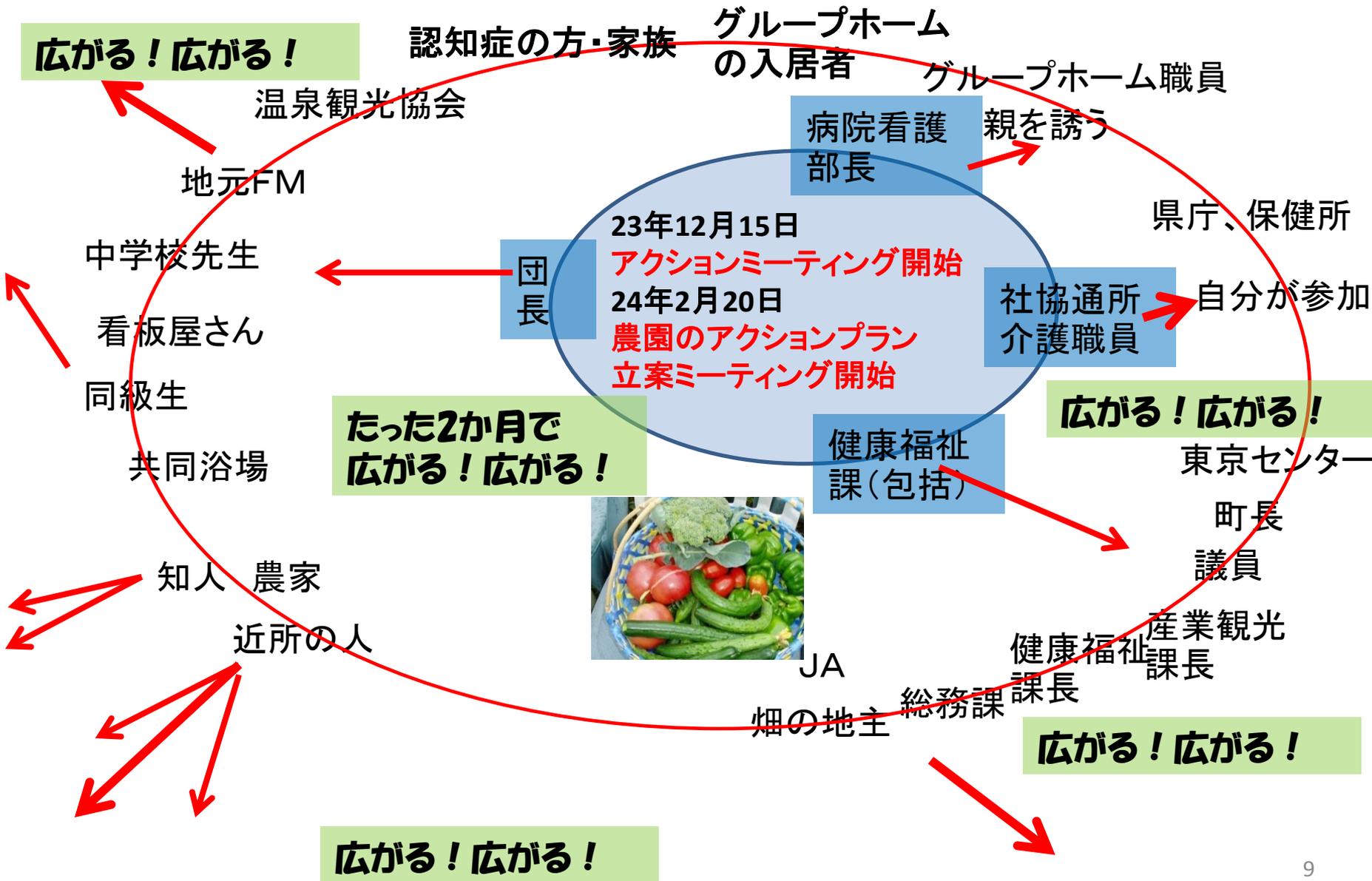
ママと
(ケアマネのお孫さん)



アクション農園開始
24年5月16日

人のつながりのプロセス

農園の例



認知症施策（アクション農園）人のつながり
24年7月日現在
湯沢町の希望の地図

認知症の方・家族
連れさんを誘
畑に
に誘った
中学生と一緒に畑をした。
教えられてうれしかった

かたり湯
他のアクションメンバー
傾聴・寄りあい所：一緒に畑作業しながら・・・
赤：団長の動き
ブルー：看護部長
イエロー：社協通所介護
グリーン：健康福祉課（包括）

地元 FM 局に周知チラシ配
置お願い
中学校の先生にお知らせ
中学生と先生が畑に来て
くれました。また来るそ
うです
PTA 会長
中学のボラ
ンティア活
動に入れた
い
温泉観光協会
周知チラシ配
置お願い
町内の看板屋さんに
農園に建てる看板を
依頼（無償）
共同浴場にポ
スター掲示を
お願い
同級生にプロ
グ作成を依頼
（無償）
ブログを見て
「参加したい」
と投稿あり



マンション住民
ボランティア

畑の事は良く覚えている。別の場所であった
時も自ら話題にしている。指示がなくても畑に
つくると早速作業開始！「うちの草取りはしたこ
とがないけど役場の畑の草取りは楽しい。」ト
マトのシバは私ができるから棒と紐を用意し
てね」「もうちょっと（草取り）がんばろうよ！
みんなですればすぐだから・・・」「きゅーおい
しいね！」（休憩時間にとれたきゅうりの漬物をお
茶うけにしています）

「畑 まもる」です。
よろしく！ブログ投稿者
が命名してくれました。



団長(マンション管理人)

病院看護部長

アクションミーティング【農園】
メンバー

グループホーム

社会福祉協議会
通所介護職員

健康福祉課（包括）

認知症介護研究研修東京センター
事業展開のアドバイス・メンバーの心の支えになっています

推進員
課の職員
作物の成長を
通勤途中に見
て報告してく

ブログ更新

認知症の人を誘う。送迎、自力で来
られる人も、散歩中の認知症の人も
誘って一緒に畑で過ごす

町観光協会のぼり旗提供

商工会
まもる（かかし）の法被とサツマイ
モ苗提供してくれました

地域密着型施設
利用者を畑に参加させてくれる

介護予防スタッフ
参加者に農園紹介

町長
広報コラムに記載
飲み物差し入れ

広報を見た人が
課に問い合わせ

健康福祉課長
課長会議で報
告、畑に参加

産業観光課長
畑の指導者

県庁や保健所の
担当
ブログを見てく
れている

総務課
広報担当
広報掲載継続取
材

議員
畑を見に来てくれた
広報を見て畑に
来てくれた

お茶菓子差し入れ、畑の番、草取り

畑の地主さ
んの了解

畑の近隣住民に説明訪問
（美容院・クリーニング取次店・町内会長）

社協に参加お願
い。局長・職員
が畑に参加。社
協便りに掲載

社協便りを見た
マンション住人
から問い合わせ

職員家族
“からいす
け”提供

ヘルパーさんが畑に認
知症の人を連れて来て
くれる

ナスとキヤベツ
苗提供

家族が畑に参加。畑の日以外にも苗を植えてくれる。
耕運機を貸してくれる。道具を預かってくれる。
地主さんに畑の借用聞いてくれた。畑の隣の空き地の所有者を調べてくれた。

知人に声かけ

畑の隣の空き地の所有者が利用
について了解してくれた

職員は自分の
家族を畑に誘
った。嫁や孫が
参加

研究者（評価・アドバイス）

家族（建設業）が畑の
ベンチ作成

いつも自転車で様子を見
に来るおじさん

畑に誘ってほしい人について情報提供

人のつながりが広がって こんな変化が起きてきた



グループホームの
皆さん

認知症の人が

★介護予防事業にも参加しているAさんは予防事業では不安そう、畑の時は自分でズボン履いて迎えを待っている。畑に着くとさっさと草取り始めたり、スコップを使ったり・・・。

★一人暮らしのBさんは意欲がなく、はじめは体調不良を訴えていたけど次第にヘルパーさんとニコニコしながら畑に歩いてくるようになった。「私は農家の出だからね。畝づくりは上手なの！」。

★「うれしいね たのしいね」会話が多くなってくる 笑顔がたくさん。

★自分からしたいことを表現するようになってきた。

★さりげなくたまった草を片づけたり、スタッフを手伝ってくれる。

★在宅からグループホームに入ったけど、また、畑に来て活動。

思いがけない
力を発揮



元、土木
作業に従事

自分で採ってみたい



人のつながりが広がって こんな変化が起きてきた



コスモスマラソンの
応援をしながら収
穫祭

認知症の家族が



マラソンの応援に本人も
家族も一緒に参加

- ★認知症の方への声のかけ方が優しくなってきた。
- ★焦らせたりせかしたりしなくなった。
- ★「父ちゃん(認知症の方)と出かけてきたて」と楽しい時間を過ごしたことを伝えてくれるようになった。伝えてくれる内容が変化してきた。(以前は困りごとが多かった)
- ★できないと思っていたことができて本人が嬉しそうで自分も安心した。
- ★介護者のつどいに参加したい。相談してみたい。(気持ちが前向きに変化した)
- ★家族の笑顔が増えてきた。
- ★自分も一緒にアクションに参加したい。気分転換になる。帰りは自分が一緒に連れて行くよ。自分のできることをしたい。

アクション農園冬バージョンに
家族も一緒に参加



人のつながりが広がって こんな変化が起きてきた

地域の人



ご近所の方々



- ★認知症の方や家族を見て「元気になったね、変わって来たね」と笑顔で話すようになった。
- ★「Aさん〇〇してほしいんだけど」声かけて一緒に作業をしている。
- ★「さすがだね～きれいに草とったね～」と必ず声かけをしてる。
- ★「今日はすごく活動的だよ、鍬持ってる！写真撮っておこうよ」
- ★農園に来た人が自分の関わりのある人にアクションを知らせ次は誘って参加。誘われた方が継続してきてくれ、別の人も誘って・・初めての出会いがたくさん。
- ★地域の方の声かけで参加する人が増えてきた。
- ★認知症の方と一緒に過ごしていることについてTVの取材を受けた時、「自然に意識しないで接するのが良いんだよ」「教えてもらうことがたくさんあって自分自身楽しくてやめられないよ」
- ★視察の人を畑に連れてくる
- ★「苗植えといたよ」「水くれしといたよ」「トウモロコシもらったよ」と火曜日以外も関わっていてくれ、報告してくれる。

人のつながりが広がって こんな変化が起きてきた

地域の人



- ★「あーあの案山子の」「Aコープのとこの」話題がつながりやすい
- ★畑を通りながら手を振っていく人が増えてきた。
- ★認知症の取り組みをもっとしたほうが良い・・・議員さんが議会で発言したことが後押しになってSOS探索訓練につながった。

マンションの方とグループホーム入居者と自宅で妻と2人暮らしの認知症の方が一緒に作業中



休憩です。「お彼岸だからみんなでおはぎ食べようよ。」地域の方から差し入れです。



人のつながりが広がって こんな変化が起きてきた



サービススタッフが

★ヘルパーさん:「Bさん(認知症、一人暮らし)は畑に行くようになってから訪問するたび元気になっていくの、自分で支度してくれたり、病院の先生に嬉しそうに畑に行っているって自分から伝えてびっくりした。(覚えてるんだ、うれしいんだ)」Bさんが元気になっていくのが私もうれしい。

★ヘルパーさん:他の人も誘ってきたいけど良いですか。

★グループホームの職員がアクションの時間を一緒に過ごし、入居者の楽しそうな様子を喜んでいる。ついでに畑で包括と担当者会議の日程調整をします。



ヘルパーさんと畑へ



傾聴ボランティアさんと認知症の方が親密な話？

いろんな人が農園を活用して人を元気にさせたいと思うようになってきた

人のつながりが広がって こんな変化が起きてきた



その他・・・いろいろなところで

- ★デイサービスに来るパートの職員さんやお掃除のおばさん、地域で出会った人から「畑に行くの、頑張ってるね」と声がかかるようになった。
- ★財政担当職員が報道されたテレビを見て「補助金なくなったらやめるって言ったのにやってる。(予算なくてもやってるんだ～)肯定的な反応だったと前課長より報告があった
- ★休みの日に「畑の草刈りしておいたよ」と役場職員
- ★冬も集まりたいね。農園冬バージョンを布草履の得意な人・茶道の先生の活躍の場にしようよ。(ケアマネ・保健師)
- ★議会で課長が取り組みを報告⇒徘徊探索訓練をしたほうが良いよ
- ★町広報の表紙になる。町長がコラムに書く。

認知症の取り組みへの理解者が増えてきた。誰が来てもいい居心地の良い場、活躍の場として活用されるようになってきた。

何故アクションミーティングで探索訓練を検討しようと思ったのか

認知症の理解者を一人でも多くしたい。啓発の取り組みを地域単位(町内やエリア)で行い、地域でアクションがおきてほしい。

課長が議会で徘徊探索訓練をやってはどうかと言われ「する！」って言ってきた。町内会長・民生委員・議員・サービス事業所・行政等でミーティングしてみよう。



25年度新規事業

【目的】 地域住民の理解と探索ネットワークの構築

【方法】 **徘徊SOS探索わが町アクションミーティング**「徘徊する認知症の方を守る」には・・・アクションプランの立案と実施

長期目標:

地域の認知症理解を広め、見守り、徘徊に対する早期発見と対応ができる

短期目標:

住民と関係機関、行政が協働で徘徊SOS探索訓練を**企画し実施・評価**することで地域の認知症理解者が一人でも多くなる
徘徊者の早期発見・対応の課題を明らかにする

徘徊SOS探索わが町アクションミーティング

【内容】

- 1回目：現状の理解と探索訓練のイメージづくり、探索訓練でしたいことの検討
- 2回目：探索訓練の具体的なアクションプラン、シナリオ等の作成
- 3回目：アクションに必要な仲間を誘って認知症地域支援「サポーター養成講座」
- 4回目：(10月2日)探索訓練本番
訓練の実施と反省会

(助言者：認知症介護研究研修東京センター長永田久美子氏)

第1回 湯沢町認知症地域支援SOS探索訓練アクションミーティング [2013. 8. 23]

SOS探索訓練でもやりたいこと どんな認知症、家族は、サービス利用、近隣との関係……	グループメンバー お名前 _____ _____ _____ _____
実際にやっていくことや流れを話しあおう	
次回の日時	



徘徊SOS探索わが町アクションミーティング

開始前にしたこと

【担当レベルでしていたこと】

他地区の取り組みを情報収集

様々な地域の探索訓練から町の現状にあわせどんな訓練がいいのか情報をまとめる
他市町村の仲間から探索訓練のイメージづくりに役立ちそうなDVDを紹介してもらう
課長や包括職員に近隣の訓練を見学に行ってもらう

【団長と健康福祉課班長、包括で打ち合わせ】

他地区の情報提供、開催時期、探索訓練の目的目標、内容、対象地区、ミーティングに声かけしたい人の検討

23年度のアクションミーティング参加者へも通知

案内通知

ミーティングに参加してほしい人に、町の現状やミーティング目的、ミーティングに参加できなくても負担に感じず見守っていてほしい・・・ことが伝わるような案内を通知。商工会等へは顔みしりの人から案内を配布してもらう。手渡せる人には手渡しで。



ミーティング当日

皆が発言

小グループにする 記録発表は職員がする(参加者は自由に発言できるように)
毎回ミーティング内容を議事録にし次回の案内と合わせて参加者も欠席者へも送付する。欠席することで次回参加しづらくならないようにする。欠席連絡をもらった時は欠席しても次回には参加したいと思えるように言葉がけをする。

徘徊SOS探索わが町アクションミーティング1回目(8/23)

参加者： 民生委員 町内会長(大字湯沢西地区) 雪国観光舎(湯沢温泉旅館組合・越後湯沢民宿組合) 南魚沼警察署 湯沢町社協 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 特別養護老人ホーム併設通所介護 ボランティア連絡協議会 町議会 健康福祉課 総務課



「地域の理解があってSOSネットも有効な手段になる。探索訓練は地域の理解を広める大事な機会。今回の探索訓練は認知症の理解を広める事前の周知活動が大事」

「回覧板と商工会のFAXで訓練とサポーター養成講座を周知しよう！回覧板は2週間あれば回るよ。サポーター養成講座も一緒に回そうよ。」

「町内の定例会で説明してほしい」

「毎回ミーティングの議事録を送ってほしい」

認知症についてよくわからない。どのように声をかけたらいい？接し方がわからない。



3回目にサポーター養成講座をしよう！

特別な訓練では実際の場面で実動できない。普段の生活の中で起こる内容を無理のない方法で実施してみよう

徘徊SOS探索わが町アクションミーティング2回目(9/3)



徘徊ルートは決めないで徘徊役に任せよう。自転車やバイクでの探索は危険だからやめよう。



家族が見守り・探索が必要になることも考え普段から近所に情報を伝えて、協力を得ておくほうが良いと思えるといいね。⇒認知症サポーター養成講座の案内を介護者の集い参加者に配布したり声かけをしていこう。

周知活動の検討

- 町広報は訓練の直近のお知らせ版にしよう
- SOSネットの事前告知は2日前に警察のネットと今回試行する商工会や観光協会へ送ろう。商工会等へはサポーター養成講座の案内も一緒にFAXしてもらおう
- 町内回覧版には訓練とサポーター養成講座の案内だけでなく、相談窓口も載せてほしい

広報車・FM・有線・いろんな手段あるけど・・・周囲が大騒ぎしすぎて認知症のご本人が怖がって隠れていた事例を経験したことがあるよ
⇒もう少し検討が必要だね

徘徊SOS探索わが町アクションミーティング3回目 認知症サポーター養成講座(9/27)

SOS訓練前に認知症について知ろう

参加者: **介護者** 民生委員 町内会長 雪国観光舎(湯沢温泉旅館組合・越後湯沢民宿組合) 南魚沼警察署 湯沢町社協 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 特別養護老人ホーム併設通所介護 ボランティア連絡協議会 **町議会** 健康福祉課 総務課 **町内回覧版を見た人** **病院研修医**



- 説明しても聞き入れてくれない時はどうしたらいいの？
- 認知症ってランク付けあるの？薬の管理と排泄ができなくなるのはどちらが重症なの？
- 休日や夜間の相談はどこにするの？
- 認知症かどうかわからいけどなんか変だな？って時は主治医に相談したほうが良いんだね
- 認知症って告知するの？

終了後、当日の流れ確認と配役打ち合わせ

徘徊SOS探索わが町アクションミーティング4回目(10/2) 訓練当日

訓練参加者：ミーティング参加者に加えて商工会加入者 記録係として同級生
新聞配達をしている町内の人 介護者 回覧板の回った地区の人
役場職員(社内メールを受ける) 他市町村
報道機関(新潟テレビ21 新潟日報) 認知症介護研究研修東京センター

町内会長・
班長・家族
が探索方
法を協議
中



事前打ち合わせ



「お父さんがい
ないの！」
長男長女登場



介護者「自分も役割をしたい」と
探索へ(3回目から参加)



発見



見学者

ヒアリング
FAXや回覧板
の反応を把握

報道機関



町内会長・班長・
探索役が探索エ
リアを協議中

徘徊SOS探索わが町アクションミーティング4回目 訓練当日 反省会

町内会長さん



民生委員さん



報道機関も含め参加者
全員発言

アクションミーティングに参加するにつれ、町内会でどう取り組めばよいのか真剣に考えるようになった。町内に戻り、盛り上げていくためにどうしていったらいいか模索したい。

地域で起こることだから町内会長が交代しても引継ぎ積み上げて行くことが大事。



徘徊役：
認知症の方の気持ちを考えながら歩きました。
湯沢は水路が多くて怖かった。
誰にも声をかけられなかった。



徘徊者の妻役：
みんなが捜しているのに見つからなくて、時間が経つにつれ死んでしまっているかもと不安な気持ちを感じていた。一刻も早く見つかってほしいと思った。普段から夫のことを良く知っておかないと²⁵..

商工会のFAXを見て訓練を知っていた薬局：自身の年齢的にも仕事の的にも他人事ではない。認知症の取り組みは病院や行政だけでは無理があると思うので町民が参加できるこのような取り組みはいい。



健康福祉課班長：今回は訓練のため地図などがあったが本来はない中でどう対応していくかが課題。SOSのFAX到着に時間がかかった。次回は設定を現状に近い形（公民館ではなく）で行う必要がある。



旅館：町内の回覧板で知った。認知症の方が宿泊しているときは職員同士で気配りしている

お土産店：FAX見ていない。若手がいらないからFAXのことはわからない。認知症が増えている。大事だよな。

ヒアリング



町内会長役：仕事上SOSネットワークのことを知っていたため助言できたが、知らないで相談されても困ってしまう。町民に周知したほうが良い。探索には相当人数が必要になる。



徘徊役の撮影者：交通事故が心配だった。FAXから発見までの時間が短くFAX受信後の対応をもう少し把握したかった。

探索役：【徒歩班】◆探索に出る前に本人が良く行く場所をしっかりと確認すればよかった。複数で出たことは相談しながら行けたのでよかった。発見時にどう声をかけるか、対応がわかるものが欲しい。

（デイサービス）◆どこに行くか想像しながら歩いた。サービス事業所の職員とペアでいろいろ教えてもらって心強かった。（介護者）▲訓練ではあったが不安と早く見つけてほしいという思いだった。地域の細かな路地までわかる町内会長とのペアは良かった。（ヘルパー）

【車班】車での探索は二次災害につながる心配があり注意が必要だと感じた。路地が多く一本違う道に入ると見つけにくい。服装の特徴が発見ポイントだった。





ケアマネージャー役：

課が間に入り調整したことでスムーズだった。情報シートの重要性を再認識した。今回の訓練でケアマネージャーは生活や趣味などの情報を聞いておくことが大事だと思った。夜や夕方、冬ならスピードを上げて探索しなければならない。



警察：

探索するエリアを指示し連絡を密にしていたこの方法が常にとれると早期に発見できる。夜間どうするかタクシー会社と協力するとか今後検討が必要。勤務の中でできる方法で実施したのは良かった。今回は探索を集中して行ったがSOSネットは業務の中で実施する。実際にこれだけ集中して探索に人がつけるだろうか？

SOSネットの依頼は電話で受けるが、情報をFAXする上で家族の承諾書が必要となるため警察に来てもらう。現実的には電話で了解を得て、後で承諾書を出してもらう。発見時は発見者が直接警察に連絡をしたほうが発見現場までのやり取りができるためわかりやすい。

今後はパターンを変え、定期的、時期も変えて実施したほうが良い。警察が発見することが多いのは地域からの通報が多いからであり、あらゆる人が関われば早く見つかる。

見学者：◆幅広い人の役割が明確になる訓練だった。認知症の人を隠さないオープンにすることが大事。SOSネットの周知も重要。町内会長さんの協力が得られるといい。（保健所）◆徘徊は地域で発生することだから町内会長に情報を発信し、実際の手順を町内会長から町内に浸透させていく必要がある。◆徘徊者を撮影しながら雪を想像していた。この取り組みが県内に広がるよう報道していきたい。（新潟テレビ21）◆夜中に新聞配達をしているが湯沢は夜中でも女性や高齢者が歩いている。従業員に声をかけるよう言っているが認知症の人かどうかわからないと言われた。今後も協力していきたい。



健康福祉課職員：◆紙面で訓練の流れは把握していたつもりだったが、実際に行なわないとわからないこともあった。今後もいろいろなパターンを想定して繰り返し訓練を行い体で覚えることが大事と感じた。◆訓練をすることで認知症を自分のことと置き換えて体験できたのではないかと思う。◆家族もケアマネも普段から情報を把握し・トおく必要があるし、どう動けばいいのかを伝えておくことが大事。警察への連絡は支援者は言えるが家族は勇気がいること。家族にどう伝えればいいのか考えさせられた。◆ミーティングを重ねることでそれぞれがつながるきっかけになった。町内会長さんが交代してもつながるようにしていきたい。◆湯沢は平地が狭く山の中に入ると搜索は難しい。今後も継続して検討していきたい。今回は回覧やマスコミの報道を通じ地域の人に知ってもらおう機会となった継続してやらないとPRにならない。来年度以降も協力をお願いしたい。

長期目標：

地域の認知症理解を広め、見守り、徘徊に対する早期発見と対応ができる

短期目標：

住民と関係機関、行政が**協働**で徘徊SOS探索訓練を**企画し実施**することで地域の認知症理解者が一人でも多くなる
徘徊者の早期発見・対応の課題を明らかにする

- 来年度も探索訓練を実施する。
- アクションミーティングを実施し関係機関と町独自ネットワークを検討。
- 町独自ネットワークを加えた搜索手順（マニュアル）を作成。
- 作成した搜索手順の検証と認知症の啓発を合わせた訓練を実施予定。
- 今回の訓練結果をまとめ、広報等で周知し、訓練を希望する町内や地域を募る。訓練実施地区を変え、町全体で1回は訓練できるようにしていく。
- 今回のミーティングに関わった方に、訓練の様子や話し合いの内容をまとめたかわら版を配布し継続参加をお願いする。
- ケアマネやサービス事業所と徘徊の恐れがあって対応されていない人がいないか見直しをする。
- 今、徘徊している人の探索ポイントをケアプランに入れられるようにケアマネ等と検討する。

アクションのプロセスの中でかかわりのあった人の言葉から・・・

自分の言葉で理解すると他の人にも伝えられる

- 生活の場は地域。地域のいろいろな人とのつながりの中で生活している。地域で取り組まないといけないことだよ
- いつ自分が、自分の家族が同じ悩み思いを抱えることになるかわからない。他人事ではないよね。
- 認知症を自分のこととして考え行動できる人が一人でも増えていくと暮らしやすくなるかな もっと広く伝えて行こうよ。お互いが声を掛け合う地域づくりが大事。
- 認知症を病気として理解することで支援者は気持ちの整理ができることもある。でも病気だからしょうがない・・・何もできなくなってしまった、させられないという理解は正しくないよね。できないと思っていたことを楽しんでしている姿を見て安心。
- 認知症があっても秘められた力は無限、発揮する機会を奪われている、できることがある。少し手伝って、声をかけるだけでいいんだよ。

地域にある様々な資源(人・場所・自然・フォーマル・インフォーマルな支援)に目を向けると



**地域の中に考えている人がいる！
一緒に活動してくれる人が見つかる**

生活の中で出会う

様々な人がつながる

いろんな生活の場面でつながっている人との出会い

介護・福祉関係者・行政のつながりだけでは生活の視点でみると狭い……一人の人として暮らしている中でのつながりは広い

1人ひとりが認知症を自分のこととして考えられるきっかけをつくり、それぞれができることを見つけ、そのつながりを太くしたい広げたいして……

行政ができることかな……



この町で、暮らしてきた。
これからも、いっしょに。

湯沢町健康福祉課(湯沢町地域包括支援センター)025-784-3000
アクション農園ブログ <http://yuzawa.cc/now/> アクション農園で検索

